

# 教育研究業績書

2024年10月22日

所属：看護学科

資格：助教（臨床）

氏名：館林 麻有

研究分野	研究内容のキーワード
看護教育学	新人教育、プリセプター、看護過程
学位	最終学歴
修士(看護学)	大阪大学大学院 医学研究科 保健学専攻

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 「初期演習Ⅱ」でのキャリア開発に関する講義	2023年1月11日	看護学部1年生を対象とした演習科目「初期演習Ⅱ」で多職種(保健師・助産師)の経験を持つ教員と共にスライドを用いて講義を行った。講義では、自身が看護学生として大学生活をどのように過ごしたのか、実習や就職、また就職後も看護師としてどのような経験をしたのかわかりやすくスライドにまとめて学生に伝える事で、看護師としてのキャリア開発を学生にイメージしてもらい、自身のキャリアに関心をもってもらうことができた。
2. 学部生に対する看護過程演習の指導	2022年4月1日～現在	「成人看護学Ⅱ」担当者の一人として演習指導に携わった。学生の特性に合わせて、資料の提示や問いかけを工夫しながら指導に努めた。
3. 学部生に対する成人期の対象に必要なとされる技術演習の指導	2019年5月～2022年2月	血糖測定やインスリン注射など糖尿病看護に必要なとされる技術演習、心電図測定など急変時に必要とされる演習において、TAとして指導を行った。
4. 学部生に対する臨地実習指導	2019年5月～2022年2月	成人看護学実習において、大阪大学附属病院における実習またはオンライン実習において、TAとして学生指導を行っていた。担当教員と連携しながら、学生の特性に合わせて指導を行えるように工夫をし、患者の個性を追求した看護展開の支援を行った。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 実習オリエンテーション資料の作成	2022年5月～現在	武庫川女子大学看護学部実習科目「成人看護学Ⅱ(急性期)」(専門科目、3年次配当、必修3単位)のオリエンテーションにおいて円滑な実習進行のために資料作成を行った。
2. 実習施設への打ち合わせ資料作成	2022年5月～現在	武庫川女子大学看護学部実習科目「成人看護学Ⅱ(急性期)」(専門科目、3年次配当、必修3単位)において、実習対象施設である兵庫医科大学、市立伊丹病院の施設担当として打合せ資料の作成を行った。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 武庫川女子大学 オープンキャンパス	2022年8月11日2022年9月25日	武庫川女子大学のオープンキャンパスで看護学生体験イベント(校生へAEDの使い方の説明と実施、救急蘇生法の目的の説明)を企画した。企画するにあたり、イベントに従事する教員や学生アルバイトへの運用方法を資料で提示し、説明を行った。参加した学生や親御様にも実際AEDに触ってもらい、救命処置をやってもらうことで、救命処置の知識を得てもらうことができた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 保健師免許	2013年4月～現在	
2. 看護師免許	2013年4月～現在	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 吹田保健所 地域保健課(感染症グループ)	2021年4月～2022年3月	吹田保健所にある地域保健課(感染症グループ)にて保健師として活動を行った。新型コロナ感染の流行期で

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
2. 大阪府箕面特別支援学校での非常勤講師(学校看護師)	2019年9月18日～2021年3月31日	あつたため、コロナ罹患者の疫学調査や健康観察、医療機関への入院の調整、職場・学校・保育園・幼稚園で感染者が増大した場合の集団調査に従事した。大阪府箕面支援学校にて非常勤講師として学校看護師業務に携わっていた。医療的ケアが必要である小学生～高校生の重症心身障がい児が授業を含めた学校生活を安全に送れるよう、必要な医療処置(吸引・経管栄養、ブジー、導尿等)を実施した。また、意思疎通が困難が児に対して全身の観察を注意深く行い、また気管切開の児も多いため切開部のトラブルも起きていないか注意を払い、異常の早期発見や呼吸状態の悪化予防に努めていた。
3. 訪問入浴での看護師業務	2018年9月～2018年2月	(株)リトルバードにて看護師として訪問入浴される利用者様の健康管理に携わっていた。
4. 独立行政法人地域医療推進機構 JCHO大阪病院	2013年4月1日～2016年3月31日	消化器・呼吸器・乳腺内分泌外科にて1年、消化器外科にて2年間、病棟看護師として勤務した。患者様は手術を受けられる患者に加え、化学療法や大腸内視検査を受けられる患者、またターミナル期の患者もおられた。内科的治療から急性期のケア、ターミナルケアと幅広い看護に携わることができた。
<b>4 その他</b>		
1. クリニカルスキルラボプロジェクトへの参加	2022年4月～現在	武庫川女子大学 クリニカルスキルラボプロジェクトに参加している。
2. 武庫川女子大学 看護学部 ジャーナル委員	2022年4月～現在	看護学ジャーナルの編集委員として編集に関わる業務に携わっている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
<b>2 学位論文</b>				
1. 新人看護師の看護過程展開を支援するプリセプターの経験	単	2021年3月	大阪大学大学院医学系研究科博士前期課程 修士論文	前年度初めてプリセプターを経験した臨床経験4年目～6年目の看護師を対象に半構造化個別面接を実施した。面接内容を逐語録としてデータとし、KJ法を用いて個別分析を行った後、得られた最終ラベル全42枚を質的帰納的に全体分析を実施し、18のカテゴリーを抽出し、[新人に行った支援に関する経験]、[周囲に協力を得ることに関する経験]、[支援を通して得た気づきや学びに関する経験]の3つの大カテゴリーに分類された。
<b>3 学術論文</b>				
<b>その他</b>				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 総合分析を2つの方法で試みて感じた各々の特徴	単	2021年3月20日	看護質的統合法(KJ法)研究会第13回 研究会	総合分析を2つの方法で試みて感じた各々の特徴について発表した。質的帰納的分析は分析時間が短く、簡易な言葉でどのような内容があるのか知ることができる事がメリットであるが、カテゴリー化の際に各最終ラベルの内容が抽象化されてしまい、看護過程の支援経験として特徴的なものが見えにくいことが難しい点であった。一方KJ法は、最終ラベルでは抽象度あがっているものの、個別分析のエッセンスをきちんと取り入れることが出来たと感じ、また細分図を作ることで、抽象化された経験の具体を表現出来ることがメリットと感じた。しかし分析を行うには時間が必要であり、初学者が一人で分析を行うことは困難であった。
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2022年9月17日～2022年9月18日	第27回 日本糖尿病教育・看護学学術集会 協力委員
2. 2022年3月1日	まちの保健室 健康相談業務
3. 2019年3月	文化看護学会 第11回 学術集会 実行委員